

平成 30 年 4 月 4 日 九州大学入学式祝辞

宇宙航空研究開発機構 (JAXA) 宇宙飛行士 若田光一

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。また、ご列席のご家族の皆様にも心からお慶び申し上げます。私はちょうど 35 年前、昭和 58 年 4 月に念願叶って九州大学に入学しました。

「ハカタ ノ マチニ ハルキタル。」合格発表の電報に書かれていた一文は一生忘れません。新入生の皆さんが、九大が持つ教育機関としての豊かなリソースを活用して多くのことを学び、充実した学生生活を過ごされることを願っています。これから皆さんはこの九州大学での学生生活を過ごしていくわけですが、仲間や友人、大学の教職員の方々との出会いは、長い人生を歩んでいく中で皆さんを支えてくれるかけがえのない財産となるでしょう。互いに切磋琢磨し合い、信頼し合える仲間を沢山作って下さい。一昨年の熊本地震、昨年の九州北部豪雨の時に震災を経験され、困難を乗り越えて勉強に励まれた方もいらっしゃると思います。皆さんの努力に敬意を表します。

「人生は、できることに集中することであり、できないことを悔やむことではない。」これは先日亡くなった偉大なる理論物理学者、スティーヴン・ホーキング博士の言葉です。2014 年に国際宇宙ステーション滞在中に博士と対談させて戴く貴重な経験をさせて戴きました。皆さん一人ひとりには誰にも負けない素晴らしい力、オンリーワンの能力を持っています。まだそれに気付いていない方も多いかも知れません。自分の興味がどこにあるのか。どんなに辛くても情熱を傾ける事ができるものは何か。自分の強みは何か。それを見つけて欲しいと思います。興味の対象は時と共に変わっても構いません。その興味の対象に向かってとことん努力する事で、深い知見や技量を習得する事ができると思います。

私の学生時代も、振り返ってみると自分を発見する旅であったようにも思います。自分の殻を割って、未知の領域に身を置き、リスクを評価した上で、新たな課題に挑戦する。時には失敗もあるでしょう。挑戦なくして成長はあり得ません。物事に慣れてきて、自分の成長のスピードが鈍化してきたなと思ったら、新たな環境や、敢えて自分を不均衡な状態に置いてみる。振り返ってみると、悪戦苦闘していて突破口が見えない中で、試行錯誤しながら課題を解決しようと奮闘していたときが、実は最も自分が成長していたときのようにも感じます。

皆さんが学生生活の中で悩み、困難に直面するような時には、先生や友人、仲間にも勇気を持って助けを求めて下さい。人間は決してひとりでは生きて行けません。久保総長のお話しにもありましたように、九大は人材の宝庫です。難題に直面し、仲間と議論して解決する過程を通して、一段深掘りしたレベルで物事を理解できるようになると思います。

これからの学生生活で、皆さんには様々な分野の勉強が待っています。勉強を通して習得する知識は重要ですが、それ以上に大学で学ぶ事に関して大切だと私が感じる事は、課題解決のためのアプローチの手法を徹底的に習得するという事です。課題を明確化し、どのような手法でその課題を解決できたかという知見と経験は、今後皆さんが遭遇する様々な問題や課題を解決していく上で、皆さんを支える貴重なノウハウとなるものです。

失敗は、徹底的に分析し次のステップでの教訓とする事で、人生の大きな糧となります。Plan Do Check Action (PDCA)のフィードバック・サイクルをきちんと回す事は非常に重要です。PDCAのサイクルを回せるようになれば、確実に自らの成長を実感できると思います。小さな目標からでよいので、PDCAサイクルの実践を始めてみて下さい。

スティーヴン・ホーキング博士と対談させて戴いた宇宙飛行は約半年に渡るものでしたが、その間、地球の周りを3000周以上周りました。宇宙から見る昼間の地球からは広大な青い海を覆う台風や、火山の噴火、強い風を連想させる筋状の雲など、大自然の営みの力強さを感じますが、夜の地球で圧倒されるのは大都市の明かり。これは人間の科学技術力を象徴しているかのような街の照明であり、人類の莫大なエネルギー消費を感じる光景です。科学技術の飛躍的な進歩により、人類はより豊かな暮らしを享受し、宇宙へも活動領域を拡大してきました。と同時に環境破壊、地域間格差等、世界規模の課題も山積しています。世界の国々との相互理解により人類全体としての英知を結集して課題を解決していくためには、学生時代に会う世界各国から集まる仲間との信頼関係の構築が、将来必ず皆さんを支える大きな力となるでしょう。世界に向けて広くアンテナを張り、相手を理解し、自らの意見をはっきり述べる経験を通して、相談に乗ってくれる友人を積極的に作って欲しいと思います。国籍、文化、宗教、性別や年齢などの違いをお互いの多様性として尊重し合い、その多様性を活かした協働によって解決できる課題も多くあるでしょう。

皆さんにもう一つ実践して欲しい事は、根気強く、自ら主体的に考え抜く力を身に着ける事と、複雑な迷路に入り込み全体像が見え難くなったと感じたら、直ちに一つ上のレーヤーから物事を眺め、全体像を俯瞰してみる事です。トンネルビジョンに陥る事なく、一段高い視点に立って自らの位置を確認し、新しい発想を持って課題を克服するための道筋を見極める事です。新しい発想を生み出す力こそが科学技術を推進させる原動力だと思います。

学生時代にもっとやっておけば良かったと思う事を次に述べさせて戴きます。それは自分の専門以外の分野についても、探究心を持って見識を広めておく事です。今週月曜には全国各地で入社式があり、企業経営者の方々が「業種を超えた競争の時代が到来した」事をコメントされていました。今、専門を超えた見識が求められています。これから大学で勉強していく過程で、勿論、専門

という「軸」をしっかりと持つ事は重要です。同時に大切なのは、どれだけ多くの知見の引き出しを持てるかという事です。私は工学を専攻しましたが、医学や法律学、心理学、芸術など、大学のサークルであったり、寮などでの共同生活を通したネットワーク作りをしたり、或いは実際にそういった専門以外の分野の講義を聴講する事などを通して、見識を広げておけば良かったと、後になって感じています。九大は、こうした如何なる分野においてもスペシャリストがいる人材の宝庫です。大学のリソースを活用して専門以外の分野でも是非見識を広げて欲しいと思います。

それともう一つ。先生の講義はしっかり聴いて全部その場で理解、吸収するようにする事をお勧めします。教職員の先生方は準備のために講義時間の何倍もの時間を費やして下さっています。私も NASA で教官を担当した時には準備が大変で、訓練生のほうがどんなに楽かを実感しました。講義で分からない事はその場でとことん質問して理解し解決する。これが最も効率的な時間の使い方です。

現在金井宇宙飛行士の国際宇宙ステーション長期滞在が継続中で、6月には、探査機「はやぶさ2」が小惑星「リュウグウ」に到着します。宇宙開発には理工学分野の専門家だけでなく、医学、生物学、法律学、心理学、経済学など様々な分野の方々の方が不可欠です。今日ここにいる新入生の皆さんの中からも将来宇宙の分野と一緒に仕事をしてくれる仲間が出てきてくれる事を期待しています。

生きていく中で大切にしたいと思っている、私の「心のチェックリスト」にある5つの言葉を紹介しましょう。夢、情熱、勇気、心のゆとりとコミュニケーションの5つです。これは私の「心のチェックリスト」ですが、皆さんもご自身の「心のチェックリスト」を持って学生生活に臨んで欲しいと思います。夢そして明確な目標に向かってチャレンジし続けていくためには、課題解決に向けた情熱、自分の殻を割って外の世界を探究する勇気、仲間と力を合わせて目標を実現するためのコミュニケーションが必要であり、そして最も大切な皆さん一人ひとりの心身の健康が不可欠です。

皆さんが大学生活を存分に楽しみながら、多くの事を学び、信頼できる仲間を沢山作り、この九大から世界に大きく羽ばたいてくれる事を期待しています。改めて、本日は入学本当におめでとうございます。ありがとうございました。